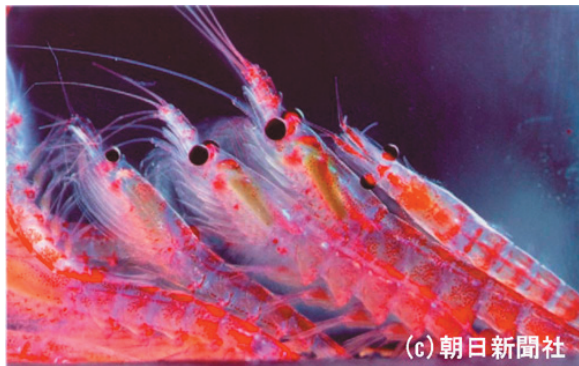
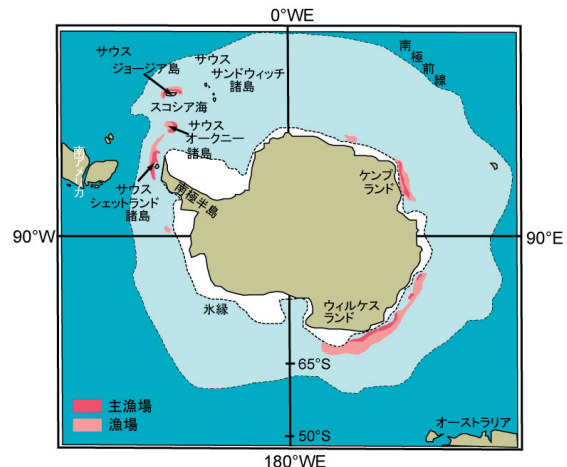


# ナンキョクオキアミ 南極海

## Antarctic Krill, *Euphausia superba*



(c) 朝日新聞社



ナンキョクオキアミの漁場・主要漁場

### 管理・関係機関

南極海洋生物資源保存委員会 (CCALR)

### 最近一年間の動き

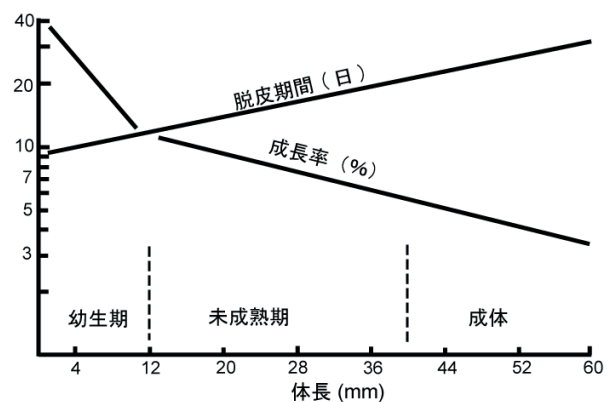
2006/07 漁期のオキアミ総漁獲数量実績は、104,586 トンであった。国別実績は、最大量がノルウェー 39,783 トン、韓国 33,088 トン、日本 24,301 トン、ポーランド 7,414 トンと続く。昨年度に新規参入したノルウェーが前年比の約 4 倍も増大させた。我が国は前漁期 32,711 トンから今漁期は 8.4 千トン減少した。2007/08 漁期は 48 海区で実施され、現時点では未集計だがほぼ 2006/07 漁期並みと予想されている。次漁期 2008/09 年のオキアミ操業計画は、8 カ国メンバーの 18 隻漁船で総計 62.9 万トン (2007/08 漁期 68.4 万トン) を通知した。しかし、通知量と実際の漁獲量の乖離に対する加盟国の強い懸念がある。

### 漁業の特徴

スコシア海 48 海区のオキアミ漁獲量は、近年約 10 万トン強で以来比較的安定しているが、国別では 2005/06 年と 2006/07 年漁期を比べると、我が国は前年から 8.4 千トン減少 (32,711 → 24,301 トン) した。最大漁獲国はノルウェーとなり前年比 4.3 倍へ大幅に増加 (9,185 → 39,783 トン) した。前年最大漁獲国だった韓国は 9.9 千トン減少 (43,031 → 33,088 トン) した。現在までオキアミを漁獲したことのある国は、アルゼンチン、チリ、ドイツ、スペイン、英国、日本、韓国、ラトビア、ノルウェー、パナマ、ポーランド、旧ソ連、ロシア、ウクライナ、ウルグアイ、米国、バヌアツおよび南アである。現在の漁場は、大西洋海区が中心で、特にスコシア海域は、漁船の寄港地の南米大陸に近く、資源も豊富と言われる。過去にはインド洋海区でも漁獲されていた。

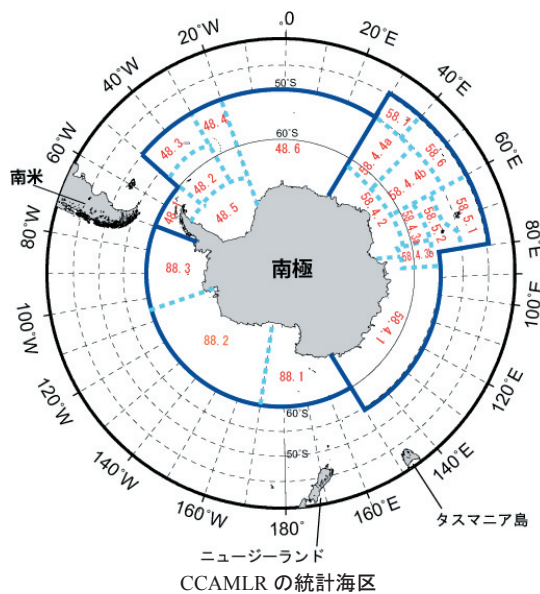
### 生物学的特性

- 寿命：5～7 歳
- 成熟開始年齢：雌 2 歳、雄 3 歳
- 産卵期・産卵場：12～3 月、南極海の陸棚、陸棚斜面水域
- 索餌期・索餌場：主に夏季・南極大陸寄りの南極表層水域
- 食性：夏) 植物プランクトン  
冬) 動物プランクトン・アイスアルジー・デトリタス
- 捕食者：海産哺乳類、海鳥類、魚類、いか類等



### 利用・用途

養殖・漁業用の餌料、釣餌、食品等



### 資源状態

本資源の漁業が本格的に開始する1972年より前には、南極海全体で資源量は数十億トンと予想されていた。1981年に計画されたBIOMASS-FIBEX（調査面積396.1×103km<sup>2</sup>）で、スコシア海（48海区）の資源量は3,540万トンと推定された。2000年に、日・米・英・露の4カ国の調査船で、スコシア海で一斉調査を実施し（調査面積2065.2×103km<sup>2</sup>）、48海区の資源量を、科学的最善値として3,729万トン（変動係数20.86%）を算定した。調査面積の増加により、FIBEX値よりCCAMLR管理区域の資源量は増えた。スコシア海以外でオキアミ資源として利用されている場所は、インド洋区の58.4.1海区と58.4.2海区であるが、その他の海区では適切な資源量は見積られていない。

### 漁業資源の動向

ナンキョクオキアミ（以下オキアミ）操業が世界的に始まったのは1972/73年シーズンからであり、旧ソ連が、7,400トンを漁獲した。オキアミ操業が本格化した後の世界全体の経緯は、1976/77年になると10万トンを超え、1978/79年には30万トン強へ増加し、1981/82年に最大漁獲量50万トン強に到達した。しかし、この後の数年間で漁獲量は、オキアミ商品化の停滞と、漁獲努力が魚類へ移ったことで大幅に減少した。1986/87年から1990/91年までの年間オキアミ総漁獲量は、35万から40万トンの間で安定したが、1992/93年には、前年の30万トンから8万トン台へ大きく減少した。これは、旧ソ連からロシアへ移行した政治体制の大きな変化により、ロシア漁船が採算を取れないという経済的理由でオキアミ漁業を中止したためである。1992/93年以降から現在までのオキアミ年間漁獲量は、10万トン前後で推移している。ただし、漁獲計画の通知は2008/09年漁期で62.9万トンとなり、主漁場の48海区のトリガー規制値62万トンを超えた。予定通知量と実際漁獲量とでは約50万トンの乖離があるが、世界的に漁獲への関心度がきわめて高いことを示唆する。

### 管理方策

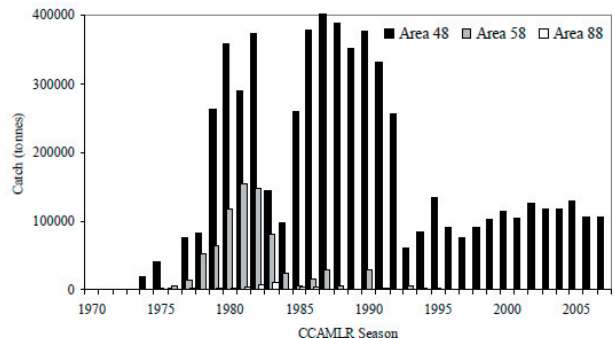
CCAMLRは、条約水域を海区に区分し、その海区ごとに保存管理措置を決定する。2007年現在の本資源へのCCAMLRの保存管理措置は、スコシア海・インド洋区の2海区に設定されている。さらに、ペンギン、アザラシ等のオキアミ捕食者の餌場への悪影響を分散するため、小規模管理ユニットによる分割の漁獲制限管理を現在CCAMLRで検討中である。

### 資源評価まとめ

■ 資源評価はCCAMLRあるいはメンバー国独自の調査研究活動の成果に基づき実施

### 資源管理方策まとめ

■ CCAMLR保存管理措置による海区毎の予防的漁獲制限量：48海区347万トン、58.4.1海区44万トン、および58.4.2海区264.5万トンとそれぞれに取り決めている。  
 ■ オキアミ捕食者の悪影響を分散させるため、予防的漁獲制限量を小規模管理ユニットへの小分割を検討中。



海区別のナンキョクオキアミ漁獲量の推移 (1970-2007) (データ：CCAMLR 2007a)

### ナンキョクオキアミ（南極海）の資源の現況（要約表）

資源水準	高位
資源動向	横ばい
世界の漁獲量（最近5年間）	10.6～12.9万トン 平均：11.6万トン
我が国の漁獲量（最近5年間）	2.3～6.0万トン 平均：3.5万トン